

泰日協会学校（バンコク日本人学校）学校だより
Thai Japanese Association School



令和6年
第11号

〈メールアドレス〉
<https://www.tjas.ac.th>
〈電話番号〉
02-314-4151

「世界に貢献する日本人」の育成～修学旅行を終えて教頭が学んだこと～

中学部 教頭 大槻 誠

「学ばない修学旅行はただの旅行だ！」は生徒たちが修学旅行に向けて決めたテーマです。

8年部は、1月17日（水）～19日（金）にかけて、2泊3日のシンガポールへの修学旅行に行ってきました。私も団長として随行させていただきました。日頃接することの少ない生徒たちと一緒に過ごして、生徒たちの素顔を垣間見たとても楽しい時間でした。

学級通信などで生徒たちの笑顔あふれる姿を紹介しています。きっと生徒たちはたくさんのことを学んだと思います。何より、世界屈指のグローバル都市（ウイキペディアより引用）に生徒たち同士で過ごし、学び、体感したことが大切だったのだと感じました。

シンガポールはご存知のとおり見どころが多く、生徒たちもそれぞれに歓声を上げていました。その中で私が教頭として印象に残ったものを2つ紹介します。

○B&S プログラム

B&S プログラムとは、生徒たちが計画した経路を、地元の学生さんに案内をしてもらいながら街中を回っていくという活動です。修学旅行を終えて、生徒たちが一番楽しかったと感想に書いた活動でした。2日目の朝、ホテルに学生さん方が来て、一人一人、それぞれのグループに入ると、生徒たちから歓声が起こりました。学生さんもとてもにこやかに出会いを大切に



している様子が伝わってきました。代表の方に聞くと、組織があって、日本に関心のある学生さんがそこに登録されているとのこと。なるほど学生さんも楽しみにしているのだなあと感じました。自己紹介のあと出発です。その時漏れ聞こえた声で「よかった～。日本語少し通じた～。」不安もあったのでしょうか。しかし、きっと少し年上のお兄さんお姉さんと話をしたくて、自分の知っている英語力を駆使して話をしたのだと思います。どの写真を見ても満面の笑みです。シンガポールという国で、自分たちで、英語を用いながら、シンガポールの学生さんと一緒に過ごした。楽しかったろうし、シンガポールに肌で触れ、人々の生活を感じたのではないのでしょうか。こんなところがバンコクと違うぞ！と感じたかもしれません。

○ニューウォータービジターセンター見学

ニューウォーターとは、水資源の乏しいシンガポールで開発された「廃水処理して生成される再生水」のブランドです。現在は国内水需要の40%をニューウォーターで賄っているそうです。その取組を紹介している「ニューウォータービジターセンター」に見学に行きました。案内する人が「君たちは日本の中学生だね。だったら英語でゆっくり話すね。」と言って案内が始まりました。私にはそのニュアンスだけが分かりました。

最初映像が10分ほど流れました。廃水と生活用水が循環する図。廃水処理し、飲み水や工場で使用されている様子、ニューウォーター事業を首相が世界にアピールしている様子。とても華々しい映像でした。これを見てSDGsの先端に行く様子に、シンガポールってすごいなあと思わせる映像でした。その後実際のろ過装置を工程ごとに移動しての説明がありました。英語の堪能な子が隣の子にこんなこと言っている



よと通訳していたのが頼もしく思いました。私は、画像を見ながら0.0004マイクロメートルまでの物質がろ過されるという数字だけが分かりました。廃水がほぼ、純水になるのだそうです。

見学を終え、私は2つのことを考え、少し落ち込みました。1つは、水はてっきり飲み水に使われるものだと思っていたからです。シンガポールは、水は歴史から言っても命綱だということを知っていました。しかし、多くは工場に送られるとあって、純水が必要な工場ってなんだろう??あ、半導体か!!シンガポールは廃水から真水を作り、それをもとに半導体の工場を欧米から誘致していたのです。水が足りないはずなのに、水を必要とする事業を誘致する。それも製造業全体の7%も占めているそうです。なんと戦略的な。

もう1つは、精密ろ過装置の中心の技術は日本の東レの技術です。日本の技術を買って、シンガポールの事業にして水が必要な国に売る。映像での首相の誇らしげな姿がちょっとうらめしく思いました。

「世界に貢献する日本人」の育成は、バンコク日本人学校の掲げる教育テーマです。言い換えれば「世界を見据えて活躍する日本人」の育成になるのだと思います。世界の現実にたくさん触れ、学ぶことはとても大切なことだと思います。今住んでいるタイ・バンコクだけでなく、樹木1本、水ひとつ、緻密に計算されて繁栄しているシンガポールをみんなと一緒に英語を使いながら学び、日本ともタイとも違うぞと肌で感じた経験は、将来必ず生きてくるのではないのでしょうか。将来活躍する生徒たちを想像しながら、教頭として学んだことでした。

さて、下級生の皆さん、8年生になったらシンガポールで楽しく学び、1つ違う世界をのぞけますよ。(シンガポールが修学旅行の行先に定着すると仮定して。)英語を使って街中をめぐるかもしれません。英語の説明が分かるようになるかもしれません。世界を感じるための英語。これも英語を学ぶモチベーションになりませんか?